



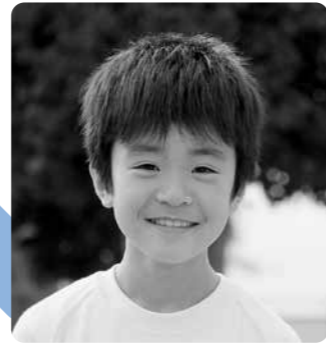
こまき だいち
小牧 大祐さん
(9歳・辛川)

- 趣味 野球
- 将来の夢 プロ野球選手
- 今一番やりたいこと ジャイアンツと中日ドラゴンズのサインがほしいので東京と名古屋に行きたい
- お父さんに伝えたいこと これからも野球を教えてください

菊陽人 りさーち



掲載を希望する人は、はがきか電子メールに「氏名」「年齢」「住所」「連絡先(昼間)」を明記し、〒869-1192 菊陽町役場総合政策課 sogoseisaku@town.kikuyo.lg.jp までお送りください。
注)掲載対象は、小学生以上で菊陽町に居住している人に限ります。親子、祖父母と孫など2人1組での掲載もできます。掲載が決まりましたら、こちらからご連絡します。



まきの ひろと
牧野 弘杜さん
(9歳・馬場楠)

- 趣味 サッカー
- 最近うれしかったこと リフティングが連続で54回できたこと
- 今一番行きたいところ ブラジル
- お父さんに伝えたいこと リフティングが連続で100回できるように頑張ります

人権のひろば

人権標語

- ・「うれしいな やさしくするのも されるのも」 菊陽中部小学校 3年 安武 凱人
- ・「いじめをね 見て見ぬふりも いじめだよ」 武蔵ヶ丘中学校 2年 大坂 夏末

子どもの目、子どもの声
人権
作文シリーズ
【No.70】

問い合わせ
人権教育・啓発課
☎(232)2113

第30回 菊陽町人権子ども集会

部落差別をはじめあらゆる差別をなくす



▲「大好き！私たちの南小」
菊陽南小学校

菊陽町人権子ども集会が12月6日、菊陽町民体育館で開催されました。
この集会は「自分のことだけでなく、相手の気持ちを考えて行動する力を身に付ける。おかしいことをおかしいと直接注意できる強さを持つ。まわりの人と一緒に子どもたちが自分たちで企画・運営する集会です。ことしは菊陽南小、菊陽北小、菊陽中部小、武蔵ヶ丘中の4校がステージ発表を行い、千人を超す参加がありました。
開会にあたり実行委員長の菊陽中3年 富永祥平さんが「この集会は菊陽町の子どもたちが自分たちの力で身の回りのいじめや差別をなくし、普段の生活をよりよくしていくための集会です。この集会を通じてこれまでの学校生活を振り返り、差別やいじめを許さない仲間の輪を広げていきたいと思います」とあいさつしました。

菊陽南小学校は「鼻ぐり井手」ができるまでの苦勞を劇で表現し、大切な家族や地域への思いを伝えました。



▲「まさおちゃんの話から学んだこと」菊陽北小学校

菊陽北小学校は学習会で聞き取りをした「まさおちゃんの話」から学んだことを発表しました。孫に言われて差別のおかしさに気付いていく様子や力をおかしの話など、寸劇を入れながら紹介しました。



▲「スイミー～大すき 菊陽町～」
菊陽中部小学校

菊陽中部小学校は2年生全員で大切な仲間を失った魚のスイミーが、菊陽町の素晴らしいものや温かい人たちに会い、元氣を取り戻していく様子や力を合わせることのすてきさを、かわいい歌とせりふで伝えました。



▲「不知火よふたたび」
武蔵ヶ丘中学校

武蔵ヶ丘中学校は、集団宿泊教室で水俣を訪れ、水俣病の語り部・吉永理巴さんから話を聞いた後、そこから学んだ水俣病にまつわる問題をテーマにした人権劇「不知火よふたたび」を演じました。各学校の発表の後には感想交流が行われ、多くの子どもたちが感想や意見を発表しました。



▲集会宣言文を読み上げる
菊陽西小学校児童

集会の最後には菊陽西小学校児童が「気持ちを伝え合うことができないなかまを増やして菊陽町から差別をなくすための行動を私たちから始めていきたいと思います」という宣言文を読み上げ、採択されました。この冬一番の寒さとなりましたが、会場は差別をなくす仲間になって自分たちの力で差別をなくしたいという熱い思いに包まれました。

きくよう文芸

菊陽句会報

間引きする人參の艶やわらかく	井 子文	押車阻む落ち葉の深々と	日高 妙子
御仏の元に母逝く冬の月	財津 早雪	一瀑を囲む奇岩や山紅葉	曾我 育代
寒波来る政局またも見えぬまま	原野レイ子	鶉の糞枝切る木瓜の棘にかな	曾我トモ子
葉塚の雨に寂びゆく冬田道	カ 幸子	朝刊のことり凍つ闇バイク音	紫藤 祥子
虫喰いをかくしセーター下に着る	寺尾千代子	裏参道落ち葉深きに足とらる	村上 朋子
山茶花や読経の中に静もれり	高橋 孝子	陽を受けて小鳥遊ばす寒椿	藤本 純子
パレードの歓声あがる小春風	堀川 妙子	長血に秋刀魚置きしと妻のメモ	米川るみ子
ひらり来て垣のみそつちよおじぎする	佐藤 節	会いに行く幼の笑みへ冬草	吉田 幸子
実千両鳥に取られてしまひけり	吉野 早苗	参道の砂利に踏み込む紅葉かな	木村 信子
白きものばかりになりて木の葉髪	井上久美子	ポケットにカイロ忍ばせ部活動	佐藤 健
着せられて疲れ引きづる千歳鉛	宮川ユキエ	黄の絨毯まだ散り足りぬ銀杏黄葉	佐藤 澄世

短歌会

はらはらと黄色き落葉の舞い落ちて霜置く道は朝の日に輝る
三重にビニール張りたりミニトマトの花咲き続く氷点下二度にも
荒磯に打ち寄する波も目の下に遠くとどろく岬に立てり
一茎の白き蒲公英つましも夕日に陰る枯芝の道に
阿蘇山の噴火の煙は黒々と空を覆いて足疎むなり
ひと碗にこめて想いを差し出せばなつかしき友の笑顔に会えり
柎の赤き実攪む一枝は灯りの下に吾が飽かぬなり
顔上げてまた下向き棒を押し四人の子らは駆け抜けてゆく

今村 貞子
梅田 國雄
河北 幸一
佐藤せい子
中村トシエ
松岡富紀子
山川 カヅ
松本 東亜